

ようか臨床研修プログラム

(2021 年度)

公立八鹿病院

目 次

1. 研修プログラムについて	1
2. 研修プログラムの特色	1
3. 臨床研修の目標の概要	2
4. 臨床研修の内容	3
5. 臨床研修を行う施設	4
6. 研修医の指導体制	6
7. 全研修期間を通じて行う研修	6
8. 研修医の評価	7
9. 各分野の研修の詳細	8
内科・一般外来、外科、救急科・総合診療科、地域医療、産婦人科、小児科、 精神科、整形外科、麻酔科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、泌尿器科、耳鼻 咽喉科、放射線科、緩和ケア科、眼科、脳神経内科、地域保健医療	
10. 協力型臨床研修病院における選択科目の研修	34
11. 研修医の処遇	34
12. 研修医の募集定員並びに募集及び採用の方法	35

1. 研修プログラムについて

○基幹型臨床研修病院

公立八鹿病院 病床数：380 床

住所：兵庫県養父市八鹿町八鹿 1878 番地 1

管理者：後藤 葉一

プログラム責任者：黒田 達実

○協力型臨床研修病院

公立豊岡病院

神戸大学医学部附属病院

鳥取大学医学部附属病院

兵庫医科大学病院

医療法人社団俊仁会大植病院

○臨床研修協力施設

公立村岡病院

養父市国民健康保険大屋診療所

医療法人社団井上医院

福井診療所

公立八鹿病院健康センター

公立八鹿病院老人保健施設

朝来健康福祉事務所（朝来保健所）

2. 研修プログラムの特色

基幹型臨床研修病院である公立八鹿病院は、救急医療、急性期医療に加え、リハビリテーション、慢性期医療、緩和ケア、予防医療等を提供する地域中核病院である。少子高齢化が先行した地域において、急性期から回復期・慢性期そして在宅まで継続した研修が可能であり、豊富で偏らない症例を経験ができることが特徴である。

1 年次は内科・一般外来 28 週、外科 8 週、救急部門 12 週の研修を行う。2 年次は地域医療 4 週、産婦人科 4 週、小児科 4 週、精神科 4 週が必修で、残りの期間は選択科目の研修となる。

選択科目の研修では、当院以外に公立豊岡病院、神戸大学医学部附属病院、鳥取大学医学部附属病院の各診療科、兵庫医科大学病院の救急科・ICU での研修が可能である。

3. 臨床研修の目標の概要

臨床研修の一般目標を示す。これに到達するための個別目標（行動目標）については、「9. 各分野の研修の詳細」で示す。

- 1) 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）を身に付ける。
 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
 2. 利他的な態度
 3. 人間性の尊重
 4. 自らを高める姿勢

- 2) 医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付ける。
 1. 医学・医療における倫理性
 2. 医学知識と問題対応能力
 3. 診療技能と患者ケア
 4. コミュニケーション能力
 5. チーム医療の実践
 6. 医療の質と安全の管理
 7. 社会における医療の実践
 8. 科学的探究
 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

- 3) 基本的診療技能を身に付ける。コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。
 1. 一般外来診療
 2. 病棟診療
 3. 初期救急対応
 4. 地域医療

4. 臨床研修の内容

臨床研修を行う分野並びに当該分野ごとの研修期間及び臨床研修病院又は臨床研修協力施設を示す。

《1年次》

○内科・一般外来

研修期間：28週　研修施設：公立八鹿病院（内科・総合診療科）
一般外来研修（4週）を含む。

○外科

研修期間：8週　研修施設：公立八鹿病院（外科）

○救急部門

研修期間：12週　研修施設：公立八鹿病院（救急科・総合診療科）

《2年次》

○地域医療

研修期間：4週

研修施設：以下のいずれか

①公立村岡病院

②養父市医療・介護施設群

・公立八鹿病院

・公立八鹿病院老人保健施設

・養父市内の診療所

（養父市国民健康保険大屋診療所、井上医院、福井診療所）

○小児科

研修期間：4週　研修施設：以下のいずれか

①公立豊岡病院（小児科）　推奨

②神戸大学医学部附属病院（小児科）

③鳥取大学医学部附属病院（小児科）

○産婦人科

研修期間：4週　研修施設：公立八鹿病院

○精神科

研修期間：4週　研修施設：以下のいずれか

①大植病院（精神科）　推奨

②神戸大学医学部附属病院（精神科）

③鳥取大学医学部附属病院（精神科）

○選択

研修期間：残りの期間

研修施設：以下のいずれか

1) 保健・医療行政

- ①公立八鹿病院健康センター 推奨
- ②公立八鹿病院老人保健施設 推奨
- ③朝来健康福祉事務所（朝来保健所） 推奨

2) その他

- 公立八鹿病院（全科）
- 公立豊岡病院（救急集中治療科を除く全科）
- 鳥取大学医学部附属病院（全科）
- 神戸大学医学部附属病院（全科）
- 兵庫医科大学病院（救急科・ICU）

研修開始までに面談を実施し、スケジュールを決定する。

【ローテーションの一例】

1年目

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科・一般外来				外科		内科			救急部門		

2年目

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域	産婦	小児	精神	選択							

地域：地域医療 産婦：産婦人科 小児：小児科 精神：精神科

5. 臨床研修を行う施設

<基幹型臨床研修病院>

公立八鹿病院

<協力型臨床研修病院>

○公立豊岡病院（救急集中治療科を除く全科）

臨床研修を行う分野（期間）：小児科（4週）、選択（4～12週）

研修実施責任者：那須通寛（副院長、呼吸器・心臓血管外科）

- 神戸大学医学部附属病院（全科）
臨床研修を行う分野（期間）：小児科（4週）、精神科（4週）、選択（4～12週）
研修実施責任者：河野誠司（医学教育学部門特命教授）
- 鳥取大学医学部附属病院（全科）
臨床研修を行う分野（期間）：小児科（4週）、精神科（4週）、選択（4～12週）
研修実施責任者：永島秀樹（整形外科教授）
- 兵庫医科大学病院（救急科、ICU）
臨床研修を行う分野（期間）：選択（4～12週）
研修実施責任者：池内浩基（炎症性腸疾患外科学主任教授）

<臨床研修協力施設>

- 公立村岡病院
臨床研修を行う分野（期間）：地域医療（4週）
研修実施責任者：石田長次（院長）
- 大植病院
臨床研修を行う分野（期間）：精神科（4週）
研修実施責任者：大川慎吾（院長）
- 養父市国民健康保険大屋診療所
臨床研修を行う分野（期間）：地域医療（1週）
研修実施責任者：加藤健
- 井上医院
臨床研修を行う分野（期間）：地域医療（1週）
研修実施責任者：井上正司
- 福井診療所
臨床研修を行う分野（期間）：地域医療（1週）
研修実施責任者：福井寿徳
- 公立八鹿病院健康センター
臨床研修を行う分野（期間）：保健・医療行政（1週）
研修実施責任者：岸本弘之（センター長）
- 公立八鹿病院老人保健施設
臨床研修を行う分野（期間）：保健・医療行政（1週）
研修実施責任者：富勝治（施設長）
- 朝来健康福祉事務所（朝来保健所）
臨床研修を行う分野（期間）：保健・医療行政（1～2日）
研修実施責任者：須藤章（所長）
地域医療の研修の中で研修を行うことを想定している。

6. 研修医の指導体制

臨床研修の各分野において、資格要件を満たした臨床研修指導医とその指導監督下にある上級医（臨床研修指導医以外で研修医よりも臨床経験の長い医師）が研修医の指導を担当し、プログラム責任者がこれを支援する。

夜間の当直（副直）における研修医の指導に関して、指導医または上級医が当直医として勤務して直接指導に当たり、随時相談に応じて必要があれば直ちに対応できる体制を確保する。特に1年次の研修医は、夜間の当直（副直）において指導医または上級医とともに診療を行う。

協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設での研修において、プログラム責任者が当該施設の研修実施責任者と連携し、当該施設における研修医の指導を支援する。

定期的及び必要に応じてプログラム責任者が研修医と面談を行い、研修に係る相談に応じる。

個々の研修医にメンターを配置し、利害関係のない状態で相談できる体制を確保する。

7. 全研修期間を通じて行う研修

1) 感染対策（院内感染や性感染症等）

内科の研修期間に、県の指定を受けた結核病床において、入院勧告を受けた結核の患者の入院診療を経験する。

内科・救急部門の研修期間に、院内感染対策チームに所属して研修を行う。

保健所において結核や性感染症への対応を経験する。

2) 予防医療（予防接種等）

小児科・地域医療の研修期間に予防接種を経験する。

公立八鹿病院健康センターで、人間ドック事業における診察と保健指導を経験する。

3) 虐待への対応

虐待に関する研修を受講するか、小児科の研修期間に講義を受ける。

4) 社会復帰支援、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

内科の研修期間に以下の症例を担当し、多職種での対応を経験する。

- ・急性期の治療が落ち着いて、退院に調整・支援を要する症例
- ・療養の方針が定まっていなくて、意思決定に関して支援を要する症例

2年間の研修期間中にアドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する講習会等を受講する。

5) 緩和ケア

内科・外科の研修期間を最低限必要とされる期間よりも4週多く設定しており、緩和ケア科での研修を包括できるようにしている。

選択科目として緩和ケア科で研修を行うことも可能である。

2年間の研修期間中に緩和ケア研修会を受講する。

6) 臨床病理検討会 (CPC)

病理解剖に立ち会い、臨床及び病理の指導医から指導を受ける。

臨床病理検討会 (CPC) で発表を行い、議論に参加する。

<全研修期間を通じて研修医が参加するカンファレンス等>

内科入院症例検討会	月～金曜日	8:10～
内科カンファレンス	水曜日	18:30～
整形外科抄読会	木曜日	8:00～8:30
外科合同カンファレンス	木曜日	16:30～
放射線治療検討会	金曜日	16:30～
脳卒中カンファレンス	隔週金曜日	16:30～
チャート回診	第1・3木曜日	13:30～
研修医勉強会	第2・4火曜日	17:00～
研修医症例発表会	第3木曜日	17:30～

8. 研修医の評価

研修医の到達目標の達成度を以下のように評価する。

1) 研修期間中の評価 (形成的評価)

各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職 (看護師を必ず含む) が「研修医評価票Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を用いて評価する。

- ・研修医評価票Ⅰ: 「医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)」に関する評価
- ・研修医評価票Ⅱ: 「資質・能力」に関する評価
- ・研修医評価票Ⅲ: 「基本的診療業務」に関する評価

少なくとも年2回、適切な時期にプログラム責任者が研修医に対して形成的評価 (フィードバック) を行う。

2) 研修期間終了時の評価 (総括的評価)

「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

9. 各分野の研修の詳細

【 内科・一般外来 】

研修の特徴と内容

臓器別ではない内科全般の研修であり、プライマリ・ケアを中心とした研修を行う。

外来（内科・総合診療科）、急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟における継続した診療を経験する。

退院後の在宅、老人保健施設、老人福祉施設での療養を意識した入院診療を経験する。

上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、心臓超音波検査等の検査を研修する。

内科の指導医のみならず他科の専門医による指導体制が整備されている。

一般外来の研修を内科と並行研修で行う。

※1日／週で一般外来の研修を行い、28週の研修期間で28日の一般外来の研修を行う。

研修の目標

内科とその周辺領域の健康問題に対する包括的・継続的な問題解決ができる。

頻繁に関わる症候や疾患に対応でき、基本的な検査・治療手技を行える。

一般外来において単独で診療ができる。

研修医の内容

病棟診療 受持ち患者数 5～10名

外来研修 総合診療科外来における紹介状を持たない内科初診患者の診察

: 0.5日／週

内科外来における一般内科の定期通院患者の診察 : 0.5日／週

教育に関する行事

月～金 8:10～ 総合内科入院症例検討会

水曜日 18:30～ 内科カンファレンス（症例検討、抄読会、レクチャー）

第1・3木 13:30～ チャート回診

指導医・上級医

院長 後藤 葉一

内科部長 高内 善

内科 渋谷 純・山崎 尊久・布施 由佳・三浦 昂・高木 真信・

仕名野 堅太郎・池田 彩・岡田 行矢・草壁 明日香

総合診療科部長
人材育成センター

田村 邦彦
黒田 達実

指導責任者

人材育成センター

黒田 達実

【 外科 】

研修の特徴と内容

当科では消化器悪性疾患を中心に、胆石症、急性虫垂炎など良性消化器疾患や鼠径ヘルニアなど一般外科的な疾患に対して手術などの治療を行っています。

外科研修に来られた先生方には、まず基本的事項として、社会人の基本姿勢、医師としての基本姿勢を学んでいただきます。更に当科では癌などの悪性疾患を取り扱うことも多いため、一般目標として患者への対応の仕方、守秘義務等についても学んでいただきたいと思います。

行動目標としては積極的に手術や外来処置に参加してもらい、さらに外科的診断法、手技・処置法を修得してもらいたいと思います。また、内科系志望の医師にとっては今後外科的処置を学ぶ機会は少なくなるため、この研修にて医師にとって必要不可欠な清潔概念、簡単な縫合・結紮処置等をぜひ身につけていただきたいと思います。

最後に、当科には若い医師も多く、共に行動することで、研修プログラムだけではわからない外科医の実際の仕事内容が見えてきます。自分の手技で傷を治してあげられる充実感、手術を通じて怪我や病気から命を救ってあげられたときに達成感なども若手医師がいることで共感できるかもしれません。外科医もいいなと思える研修を提供したいと考えています。

教育に関する行事

月曜日	病棟回診処置、手術
火曜日	病棟回診処置、手術
水曜日	病棟回診処置、手術
木曜日	病棟回診処置、手術、手術症例カンファレンス
金曜日	病棟回診処置
随 時	上部および下部内視鏡検査、上部・下部消化管透視検査 腹部超音波検査、ドライラボによる縫合・結紮訓練習

指導医・上級医

副院長・外科部長	西田 勝浩
外科部長	大原 忠敬
外科	杉田 裕・大橋 千裕・白神 直人

指導責任者

副院長・外科部長	西田 勝浩
----------	-------

【 救急科・総合診療科 】

研修の特徴と内容

公立八鹿病院は西南但馬地域において中心的な二次救急病院である。また、兵庫県地域災害拠点病院にも指定され、さらに、地元消防本部と連携し、救急救命士の病院実習等、プレホスピタル活動にも顔の見える関係作りをしている。

当科は、救急車や walk in 受診患者や各科定期受診患者の急病・急変患者対応をする、いわゆる北米 ER 型システムで運営され、年間に総患者約 10,000 人、救急車約 1,100 台（地元消防本部が約 90%）を受け入れている。平日日勤帯は救急専属医 1 名、夜間・休日帯は全医局員と地元医師会やその他の応援医師により 2 名体制で運営されている。また、院内・院外 ICLS コース開催や市民向けの BLS コース開催、定期的な災害訓練を企画運営し、DMAT チーム養成にも携わっている。

研修の目標

- 1) 内因・外因疾患診療ができ、さらに患者トリアージや上級医・他科医師へのコンサルテーションができる。
- 2) 病院前外傷初期診療（JPTEC など）が理解でき、プライマリ・ケアとしての外傷初期診療ができる。
- 3) 一次救命処置（BLS）が指導でき、二次救命処置（ALS）が実施できる。
- 4) 災害対応訓練内容を理解し参加できる。

指導医・上級医

救急科・総合診療科部長	倉橋 卓男
整形外科	岩井 俊介
外科	白神 直人

指導責任者

人材育成センター	黒田達実
----------	------

【 地域医療 】

公立村岡病院

村岡病院で学ぶこと

独居老人、高齢夫婦世帯の多いこの地域で、高齢者の希望である在宅生活を送るのに何が必要かを知り、それを援助する。

1. 老人医療

目標：高齢化率約 40%の地域で老人医療を実体験する。

- 老人の定義
- 老人医療の本質
- 老人のかかりつけ病院
- 精神的ケアの重要性

2. ターミナルケア

目標：老人医療はゆっくりとしたターミナルケアであることを知り、実践する。

- 身体的ケア
- 精神的ケア
- スピリチュアルケア
- 家族のケア

3. 在宅医療

目標：老人医療の主目的は在宅医療であることを知り、実施する。

- 入院した時点から退院計画が始まる
- 在宅でのコミュニケーション
- 真の"患者が主役"
- 在宅での栄養管理
- 在宅ターミナルケア
- 病院だからできる在宅 24 時間体制

4. 介護との連携

目標：老人医療は介護職と連携して初めて成たつことを知り、関係者と効率的なコミュニケーション方法を学ぶ。

- 退院計画会議
- 在宅ケア会議

指導医・上級医

院長 石田 長次

研修実施責任者

院長 石田 長次

【 地域医療 】

養父市医療・介護施設群

構成する施設

○公立八鹿病院

※200床以上の病院であるが、病院が立地する養父市全域が、過疎地域自立促進特別措置法第2条第1項に規定する地域に該当し、「へき地」に該当する。

○公立八鹿病院老人保健施設

○養父市内の診療所（養父市国民健康保険大屋診療所、井上医院、福井診療所）

研修プログラムの特色・概要

公立八鹿病院は地域の診療所と連携し、在宅療養の患者に起こる急性の病態に救急・入院診療機能で対応している。

公立八鹿病院には回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟があり、急性期の治療を終えた患者が在宅で療養したり適切な施設に入所したりするまでのケアを提供している。

公立八鹿病院に併設された老人保健施設は、在宅療養者とその家族を支援している。

研修医が地域住民に対する医療・介護を包括的に経験できるように養父市内の診療所、病院、老人保健施設が協力している。

研修の目標

- 1) 地域における医療・介護制度の概要について説明できる。
- 2) 地域における診療所の役割や病院との役割分担について説明できる。
- 3) 診療所・病院（総合診療科）において外来診療を行える。
- 4) 訪問診療や往診を行い、在宅で必要な処置を行える。
- 5) 高次医療機関との連携（紹介・逆紹介）を行える。
- 6) 医療・介護に関係する他の職種と連携できる。
- 7) 地域社会に関心を持ち、地域住民と積極的に関わることができる。

研修の内容

○公立八鹿病院

救急・入院診療、回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟での診療を経験する。

○公立八鹿病院老人保健施設

在宅療養者の入所・短期入所、通所リハビリテーションを経験する。

○養父市内の診療所（養父市国民健康保険大屋診療所、井上医院、福井診療所）

一般外来と在宅医療を経験する。

研修の評価

診療の場面における評価

指導医との振り返りにおける経験及び知識獲得の評価

各施設の指導医・指導責任者

公立八鹿病院 黒田 達実

公立八鹿病院老人保健施設 富 勝治

養父市国民健康保険大屋診療所 加藤 健

井上医院 井上 正司

福井診療所 福井 寿徳

当該地域医療研修全体の実施・指導責任者

公立八鹿病院 黒田 達実

【 産婦人科 】

研修理念

思春期から老年期までの女性患者ならびにそのご家族と良好な人間関係を保ちつつ、産科および婦人科医療を経験することを目的とする。

産婦人科一般に関する事項

- ① 産婦人科病歴のとり方：とくに月経や妊娠歴を中心に
- ② 産婦人科理学所見のとり方：双合診（内診）や直腸診の行い方を修得する
- ③ 膣鏡診・コルポ診の行い方の修得
- ④ 産婦人科画像診断法の修得：超音波断層法(2D、3D およびカラードップラ法)、骨盤腔の CT や MRI の読影、子宮卵管造影法(HSG)の実際と読影など
- ⑤ 細胞診の検体採取と評価法の修得
- ⑥ 病理検査用検体の採取と所見評価法（ベセスダ方式）の修得
- ⑦ 妊婦に対する放射線防護や薬物の適正使用法に関する研修
- ⑧ 女性の生涯を通じての内分泌環境を考察し、思春期や更年期の医療に応用する
- ⑨ 思春期心身症患者や更年期婦人および終末期癌患者のメンタルヘルスケアに関する研修
- ⑩ 各種病態説明に立ち会うなかで、インフォームド・コンセントやセカンドオピニオン等の手続きを学ぶ
- ⑪ 産婦人科診療における保険医療と自費診療の区分を認識する
- ⑫ 他職種（コ・メディカル）との連携によるチーム医療の実践

産科関連領域

- ① 産科診察法一般の研修
- ② 妊娠成立と異常妊娠に関する研修（子宮外妊娠、絨毛性疾患など）
- ③ 妊婦に行う臨床検査とその意義に関する理解
- ④ 胎児発育評価法（超音波診断中心）と胎児機能評価法（ノンストレステストやドプラ血流計測など）に関する研修
- ⑤ 分娩の3要素（胎児、産道、娩出力）に関する知識の習得
- ⑥ ハイリスク妊娠に関する知識の習得と管理法の実際
- ⑦ 分娩進行とその異常に関する知識の習得と実際の分娩立会い
- ⑧ 新生児の生理と病理に関する一般的知識の習得：新生児仮死、新生児黄疸など
- ⑨ 産褥期の諸問題に関する理解（とくにマタニティブルー）
- ⑩ 院内助産の理解と実践

婦人科関連領域

- ① 代表的婦人科疾患に関する理解：子宮内膜症、子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌、
卵巣腫瘍、性感染症など
- ② 骨盤内臓器の解剖学的理解：とくに泌尿器や下部消化器との関係
- ③ 婦人内分泌学に関する基本的理解
- ④ 婦人科手術学

臨床研修

- ① 外来では、担当医の診療を見学し、診療技術一般の修得をめざす。
- ② 産直指導医のもとで、分娩進行状況把握や分娩時の処置（会陰切開・縫合）にかかわる。
- ③ 毎月第3水曜日に行われる分娩例検討会に参加して、協議に加わる。
- ④ 手術例は術前検討会に参加すると共に、手洗いを行って助手の補助を行う。
- ⑤ 死亡例検討会や臨床病理検討会(CPC)に参加する。
- ⑥ 入院患者の副担当医として担当医の病棟業務を学ぶ。

週間スケジュール（研修場所）

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	病棟 (回診補助)	外来	外来
午後	手術	外来	病棟	手術	病棟

指導医・上級医

産婦人科部長 中島 雅彦
産婦人科 松本 典子
津崎 恒明 ・ 尾崎 和彦（非常勤）

指導責任者

産婦人科部長 中島 雅彦

【 小児科 】

公立豊岡病院

神戸大学医学部附属病院

鳥取大学医学部附属病院

研修プログラムの特色・概要・目標等

当該協力型臨床研修病院の小児科の研修プログラムに従う。

各施設の指導責任者

公立豊岡病院 新生児科部長 上田 雅章

神戸大学医学部附属病院 小児科教授 飯島 一誠

鳥取大学医学部附属病院 小児科教授 前垣 義弘

【 精神科 】

大植病院

大植病院精神科の紹介

精神科 外来患者数：平均約 400 人／月

精神科病棟：250 床 精神保健福祉法指定医療機関である。

プログラムの目的と特徴

将来の専門性にかかわらず、日常診療で遭遇する精神疾患に対して、適切に対応できるよう、以下の修得を目指した研修を行う。

- 1) 適切な医師患者関係の持ち方。患者を病める存在として全人的理解
- 2) 精神症状の的確な評価
- 3) 他科入院患者で精神医学的問題を抱える患者へのリエゾン・コンサルテーション
- 4) 簡易な心理療法の修得
- 5) 正しい向精神薬使用の修得

経験目標

以下の 1) ～3) の疾患・病態には各 1 例を経験し、診断、検査、治療方針について理解する。4) ～12) について、外来または入院患者で自ら経験する。

- 1) 統合失調症
- 2) 気分障害
- 3) 認知症
- 4) 身体表現性障害、ストレス関連障害
- 5) 症状精神病（せん妄）
- 6) アルコール依存症
- 7) 不安、抑うつ障害
- 8) 児童・思春期
- 9) 摂食障害
- 10) 不眠
- 11) けいれん発作
- 12) 精神科領域の救急

指導体制

卒後 3～5 年目医師も指導医とともに研修医指導に当たる。病院長が研修全体を総括する。

研修に関する行事

- 1) クルズス：精神療法、精神科救急、老年精神医学、精神保健福祉法、精神障害各論、薬物療法、精神科における身体管理、カルテ記載等について研修医向けクルズスが行われる。
- 2) 病棟スケジュール：入院患者の担当医となり、うつ病、統合失調症、器質性精神障害、認知症疾患などの代表的精神神経疾患について学ぶ。週間スケジュールとして、月曜日は午後からチャート・ラウンドが行われ、研修医が担当患者の1週間の経過をプレゼンテーションし、指導医がコメントする。新患紹介もこの中で行われる。火曜日は10時より院長回診が行われる。最終的に研修で担当した症例をまとめ症例検討会で研修医が詳細に紹介する。適宜病棟カンファレンスがあり、ここでは医師、看護師、精神保健福祉士などが参加し症例を検討する。
- 3) 外来スケジュール：週2回、月曜日一般精神科外来および木曜日午後専門外来（メモリー外来）に新患の予診をとり、指導医の本診に同席する。また、緊急診察があった場合は同席し症例を経験する。
月曜日から土曜日午前中は一般精神科診療外来、木曜日の午後は専門外来（メモリー外来）が行われている。
- 4) 研究会：適宜開催される、必要と認めた各種研究会・研修会へ出席する。

指導医・上級医

理事長	松田 年司
病院長	大川 慎吾
精神科	清水 光太郎 ・ 俵 嘉寿子 ・ 中村 洪一
内科	松田 玲子

研修実施責任者

院長	大川 慎吾
----	-------

【 精神科 】

神戸大学医学部附属病院

鳥取大学医学部附属病院

研修プログラムの特色・概要・目標等

当該協力型臨床研修病院の精神科の研修プログラムに従う。

研修実施責任者

神戸大学医学部附属病院 精神科神経科教授 曾良 一郎

鳥取大学医学部附属病院 精神科教授 兼子 幸一

【 整形外科 】

研修の特徴と内容

整形外科的疾患の外傷、慢性疾患のおおまかな全体像を把握してもらうことを目標とします。

午前中は、外来診療に立ち会ってもらって、診療の進め方を掴んでもらい、ある程度慣れたら、外来初診患者さんの問診、理学的所見をとってもらいます。

午後は、手術に入ってもらい、力量に応じて参加してもらいます。

時間外の整形外科的疾患の対応では、スタッフの指導のもと、最前線で活躍してもらいます。

上記研修内容を習得するためには2ヶ月以上必要ですので、研修は可能であれば2ヶ月以上でお願いします。

研修の目標

1. 慢性疾患の診断、治療の進め方を理解、実践する。
2. 脱臼、骨折など外傷の初期治療の基礎を身につける。

教育に関する行事

月水金	8:00～8:30	病棟処置
月～金	8:30～13:00	外来診療
火～金	13:00～17:00	手術
水曜日	15:00～16:30	病棟回診（回復期リハ棟含む） 入院患者カンファレンス
木曜日	8:00～8:30	抄読会
	17:00～17:30	術前、術後カンファレンス

指導医・上級医

整形外科部長	元津	康彦
整形外科	山本	裕也・岩井 俊介

指導責任者

整形外科部長	元津	康彦
--------	----	----

【 麻酔科 】

研修の特徴と内容

一般的な手術麻酔全般の基礎知識、および技術を習得する。

当院は典型的な少子高齢化地域にあり高齢者の麻酔が大部分を占める。

呼吸、循環さらには中枢神経疾患を含めたハイリスク症例が大多数となり、いかに予備力の少ない症例の麻酔を安全におこなうかが重要なポイントとなる。

当然マニュアル通りの管理は困難であり個々の症例毎に応じた綿密な麻酔計画と技術が必要になってくる。

研修の実際

(1) 初期研修

全身管理に必要な臨床的技術と知識を習得することを目的とし、個々の症例に応じた麻酔計画の作成・術中管理・術後回診を指導医とともに行う。

麻酔技術の習得目標：全身麻酔法、各種局所麻酔法、人工呼吸法、気管挿管、静脈確保、内頸静脈穿刺、動脈穿刺、腰椎穿刺など。

(2) 選択研修

将来、麻酔科標榜を希望する医師のために麻酔医として必要な臨床的技術と知識を習得する。初期研修の項目を各自がしっかりと習得することを目的とする。

さらに硬膜外麻酔を含む専門技術の習得を行う。希望すれば緩和ケアの研修を行うことが出来る。

教育に関する行事

月～金	8:30～	術前・術後症例検討会
月～金	9:00～	手術室における麻酔および術後回診
月曜日	午前	麻酔科管理症例術前診察

指導医・上級医

管理者 富 勝治

指導責任者

管理者 富 勝治

【 脳神経外科 】

研修の特徴と内容

脳神経外科疾患全般について、主要疾患を中心に基礎的知識と、画像を含む診断学、治療技術などについて研修する。指導医の指導、監督のもとで、実際の患者を受け持ち、重症・軽症を問わず、神経学的診察、画像診断、問題点の把握、管理方法などについて具体的に研修する。

特に頭部外傷、脳卒中などのような救急疾患については実際の救急患者来院時に症例を担当することで、迅速に問診、神経所見、全身所見をとり、状態を把握して初期治療後、早急に検査計画を立案・実行し、その結果から診断し、治療方針を決定、家族に説明して同意を得るまでの一連の過程を習得することを目標とする。

外来診察についても初診患者の問診から診察、検査の立案から診断に至るまでの過程を研修する。

この間に厚生労働省到達目標の項目についても研修する。

教育に関する行事

金曜日 総合回診、リハビリカンファレンス、症例検討会

指導医・上級医

副院長・脳神経外科部長 福森 豊和

指導責任者

副院長・脳神経外科部長 福森 豊和

【 皮膚科 】

研修の特徴

皮膚疾患は患者数も多く、本人や家族の目に見えるため、地域の診療所でも多くの症例を診療する必要がある。また、診断に当たっては問診と皮疹の観察が重要である。治療では皮膚外用剤が主体であるため、治療効果は外用剤の適切な選択と外用方法の指導に依存するところが大きい。

研修の目標

1. 外来診療において

- ①多くの症例を自らの目で経験して診断力を養う。
- ②皮膚感染症の適切な検体採取と真菌顕微鏡検査による診断。
- ③爪を含む外傷と軽度の熱傷の処置法の習得。
- ④外用剤の作用および強さと副作用について理解し、適切な外用剤の選択と外用指導の基本を習得する。

2. 院内の入院患者の褥瘡を診療して褥瘡の予防と治療法の基本を習得する。

研修期間

1ヶ月の研修を基本とするが、他診療科研修中に週1回の外来研修も可能である。

指導医・上級医

皮膚科部長 小出 隆

指導責任者

皮膚科部長 小出 隆

【 泌尿器科 】

研修の特徴と内容

泌尿器科疾患の専門的診療のみならず、広く臨床の基礎に関する知識を習得できるようにカリキュラムを組んでいる。研修内容は以下の通りである。

- 1) 疾患の理解：泌尿生殖器の先天異常、腫瘍、炎症、機能障害、尿路結石について臨床例を経験することにより、診断から治療への流れを理解する。
- 2) 臨床の基本：患者に対する接遇の心得、他科との連携の取り方、基本的な検査、処置の手技を習得する。
- 3) 救急処置：主に泌尿器科領域の救急処置の適応、方法を習得する。
- 4) 学会活動：泌尿器科関連の主要学会に参加する。

教育に関する行事

火曜日	17:00～	術前検討会
水曜日	午後	手術
月～金	午前	外来診療

指導医・上級医

泌尿器科部長	濟 昭道
--------	------

指導責任者

泌尿器科部長	濟 昭道
--------	------

【 耳鼻咽喉科 】

研修の特徴と内容

当科では将来耳鼻咽喉科を標榜する医師のための基礎的な研修を行う。

一般臨床医としての基本的知識、技術を習得し、耳鼻咽喉科専門医としての知識や技術を習得する。耳鼻咽喉科・頭頸部の解剖・機能・病態を理解し知識を習得する。耳鼻咽喉科の検査の意義と原理、方法を理解し、適切に実施、結果の判定ができる。耳鼻咽喉科、頭頸部外科の基本的手技を習得するとともに、簡単な手術は自ら行い、より高度な手術で助手を務めることができる。臨床・基礎研究に興味を持ち、研究発表を行う。

研修期間の耳鼻咽喉科研修は最低3ヶ月間を当科で行う。研修期間中はまず基礎研修後、一般外来診察あるいは午後の予約検査外来で、聴力検査、平衡機能検査、顔面神経検査、鼻副鼻腔検査、咽喉頭内視鏡検査を学ぶ。また病棟で指導医のもと受持医として入院患者を持ち、診察の方法、検査、薬物治療法、手術療法・手技を学ぶ。

教育に関する行事

	午前	午後
月	8:30～ 初再診	手術（外来手術） 15:30～ 聴覚・平衡機能
火	8:30～ 初再診	手術
水	8:30～ 初再診	検査 内視鏡・超音波下生検
木	8:30～ 初再診	手術
金	8:30～ 初再診	検査 聴覚・平衡機能

指導医・上級医

耳鼻咽喉科部長 谷本 俊次

指導責任者

耳鼻咽喉科部長 谷本 俊次

【 放射線科 】

研修の特徴と内容

放射線科は大きく分けると放射線診断(IVRを含む)、放射線治療に分かれます。これらに対して放射線学会専門医、IVR 指導医、核医学会認定医が指導にあたります。

放射線診断

CT、MRI、RI を中心とした各種画像読影の習得。

腹部、頸部等の超音波検査の習得。

血管造影の基本的手技の習得。

IVR の基本的手技の習得

肝細胞癌に対する TAE、閉塞性動脈疾患 (PAD) に対する stent 留置、
超音波、CT ガイド下 intervention

IVR 術前、術後の管理の習得

放射線治療

放射線生物学、物理、画像診断をふまえた放射線治療の基礎の習得。

IVR、化学療法と放射線治療併用療法の習得。

教育に関する行事

火曜日	画像検討会
水曜日	抄読会
金曜日	放射線治療検討会
年 1 回(春)	但馬画像研究会
年 3 回	南但地域連携研究会 (画像症例提示)

指導医・上級医

副院長・放射線科部長 小山 司

指導責任者

副院長・放射線科部長 小山 司

【 緩和ケア科 】

研修の特徴と内容

世界保健機関（WHO）は、緩和ケアを「生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者と家族に対し、その身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期から正確にアセスメントし解決することによって、苦痛の予防と軽減を図り、生活の質（QOL）を向上させるためのアプローチである」と定義しています。

当院では、患者さん・ご家族の“全人的苦痛（トータルペイン）”を早期から正しく評価し、原因に応じた治療とケアを行って、QOLの改善・維持を目指しています。

研修の目標

1. がん性疼痛の評価と治療（オピオイドの使い方）
2. 各種症状の評価と治療
 - a. 呼吸困難
 - b. 消化器症状（嘔気・嘔吐）
 - c. 気持ちのつらさ（うつ）
 - d. せん妄
 - e. 全身倦怠感 など
3. コミュニケーション技術の修得
4. 療養の場所の選択、地域連携
5. 治療、ケアのゴールを話し合うアドバンス・ケア・プランニング
6. がん悪液質と栄養・輸液療法
7. 苦痛緩和のための鎮静について

教育に関する行事

毎 日	14:00～	緩和ケア外来（面談等）
火曜日	14:15～	音楽療法
水曜日	13:00～	カンファレンス
金曜日	11:00～	緩和ケア病棟回診
随 時		緩和ケア外来（通院）
随 時		病棟行事 (誕生日会、お花見会、七夕会、月見会、クリスマス会、ひな祭り会 など)
11月頃		ひだまりの会（遺族会）
12月頃		緩和ケア研修会（医療者を対象として）

指導責任者・指導医

緩和ケア科部長 岸本 弘之

【 眼科 】

研修の特徴と内容

外来において必要な知識・技術を習得し、患者への適切な接し方を学ぶ。

指導医の下で屈折矯正検査、調節検査、精密眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、精密眼底検査等の種々の検査法を習得する。

指導医・上級医

眼科非常勤医師

指導責任者

人材育成センター 黒田 達実

【 脳神経内科 】

研修の特徴と内容

午前の外来の研修ではさまざまな神経疾患を経験する。

午後の病棟の研修では神経難病の主として慢性期の医療を経験する。

指導医・上級医

脳神経内科非常勤医師

指導責任者

人材育成センター 黒田 達実

【 地域保健医療 】

公立八鹿病院 健康センター

研修の特徴と内容

健康な人への予防医療について研修する。

人間ドック受診者において肥満関連疾患を中心として生活習慣病が急増しているが、ストレス、単身赴任、遠距離通勤、長時間勤務などが生活習慣改善の行動変容を困難にしている。

症状のない人への健康教育技術はプライマリ・ケア医の重要な技術であるが、何らかの不調があつて医療機関を受診する患者の診療の経験だけでは習得が困難である。

人間ドック事業を経験し、健診における診断・指導を経験する。

研修の内容

診察と保健指導

糖尿病予防教室への参加

指導医・上級医

健康センター長 岸本 弘之

研修実施責任者

健康センター長 岸本 弘之

【 地域保健医療 】

公立八鹿病院 老人保健施設

研修の特徴と内容

当老健施設は主たる目的を在宅支援に置いている。

年間の入退所者数は1,000名を超え、その半数は短期入所の利用である。長期入所者はほぼ全員が3か月以内に退所し、退所先の80%は自宅となっている。

老人保健施設の役割は、多職種（＝支援相談員のマネジメントに始まり、リハビリ・介護・看護職員の協働と医師の医学管理）の下で居宅生活を目標とした支援である。当施設での研修を通してこれに触れ、高齢者をとりまく社会的な状況を理解し、介護保険制度における老人保健施設の役割、その他の介護保険サービス事業所の役割について学ぶ。

また、高齢者の全身管理を行い、起こりやすい合併症への対応、認知症高齢者への対応方法を習得する。

教育に関する行事

木曜日午前 入所判定委員会

指導医・上級医

施設長 富 勝治

研修実施責任者

施設長 富 勝治

【 地域保健医療 】

朝来健康福祉事務所（朝来保健所）

研修の特徴と内容

保健所の業務を見学し、その役割（地域保健・健康増進への理解を含む）を理解する。

指導医・上級医

朝来保健所長 須藤 章

研修実施責任者

朝来保健所長 須藤 章

10. 協力型臨床研修病院における選択科目の研修

2年次の選択科目の研修を協力型臨床研修病院で行うことができる。選択科目の研修が可能な協力型臨床研修病院と診療科は以下のとおりである。

協力型臨床研修病院での選択科目の研修の期間を原則として合計16週(必修科目である小児科や精神科を含まない)とする。

研修先や研修期間については、1年次の10月から翌年3月までにプログラム責任者が研修医と相談して決定するが、協力型臨床研修病院の状況により研修できる診療科や研修の時期・期間について研修医の希望に沿えない場合がある。

選択科目の研修が可能な協力型臨床研修病院と診療科

○公立豊岡病院

受け入れ可能な診療科：総合診療科、消化器科、脳神経内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、小児科・新生児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器・心臓血管外科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科

○神戸大学医学部附属病院

受け入れ可能な診療科：全診療科

○鳥取大学医学部附属病院

※県外であるが、以前から医師の派遣・交流があり、関係が深い。

受け入れ可能な診療科：全診療科（1名）

○兵庫医科大学病院

受け入れ可能な診療科：救急科、ICU

研修の内容

当該協力型臨床研修病院の当該科の研修プログラムに従う。

身分等について

出張の扱いとし、旅費と住居にかかる費用の一部を支給する。

11. 研修医の処遇

身分は常勤の臨時職員であり、勤務日は週5日、土曜日・日曜日・祝日は休みである。勤務時間は午前8時30分～17時で、45分の休憩時間がある。労働基準法に基づく年次有給休暇の取得が可能であり、別に所定の夏期休暇が付与される。

労働時間の管理は、院内の複数個所に設置されたパソコンに本人が出勤・退勤の登録をすることで行われる。

当直（副直）は月 2～4 回（平日のみ）で、時間は平日の 17 時～22 時である。これにより 10 時間程度の勤務間インターバルが確保される。当直（副直）及び時間外勤務に対して手当が支給される。

時間外労働について、プログラム責任者が 1 回／月定期的にチェックして管理し、長時間（45 時間／月以上）であれば指導及び業務の調整等を行う。

医師住宅（単身用 2DK、世帯用 3DK）に入居が可能である。

社会保険・労働保険については以下のとおりである。

- ・公的医療保険：協会けんぽ（全国健康保険協会）
- ・公的年金保険：厚生年金保険
- ・労働者災害補償保険法の適応：有
- ・雇用保険の適応：有

労働安全衛生法に基づく健康診断（1 回／年）の受診は必須であり、産業医を兼務するプログラム責任者が研修医の健康管理を担当する。

医師賠償責任保険については病院において加入するが、個人での加入は任意である。

外部の研修活動（学会、研究会等への参加）は可能であり、規程に基づく旅費・参加費用の支給がある。

1 2. 研修医の募集定員並びに募集及び採用の方法

募 集 定 員：3 名

募 集 方 法：公募

募 集 期 間：2020 年 6 月 3 日（月）～2019 年 8 月 2 日（金）

応募必要書類：履歴書、卒業（見込み）証明書、成績証明書

選 考 方 法：面接、作文

選 考 時 期：2020 年 8 月 19 日（月）以降

マッチングを利用し、欠員があれば 2 次募集を行う。

<参照>

公立八鹿病院のウェブサイト：<http://www.hosp.yoka.hyogo.jp/>